

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の産業振興－（株）トロピカルテクノセンターとの関わり－

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 照屋, 輝一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016837

沖縄の産業振興

－(株)トピ・カテクセンターとの関わり－

(株)トピ・カテクセンター 研究開発部長

照屋 輝一

はじめに

沖縄経済は二期にわたる沖縄振興開発計画を通じて社会資本の整備が進み、経済規模も全国を上回る率で成長し、県民総生産は昭和62年度実績で24,469億円で復帰時の約5倍と飛躍的に拡大してきた。然し、これは全国平均の約2倍に相当する財政投資に負うところが大きく、その産業構造は全国と比較して第三次産業に偏重した消費経済の様相を呈しており、特に産業別県内総生産に占める製造業（工業）の構成比は6.5%と全国平均よりも22.5ポイントも低く、産業構造上の弱点となっている。

工業は知識集約型で付加価値が高く、雇用吸収力が大で、またいろいろな形で他産業への波及効果を有してその付加価値を高める。地域経済の健全な持続発展を促進する地域産業のバックボーンとしてその強力な振興を図るべきであり、(株)トピ・カテクセンター（TTC）設立の役割もそのことと深く関わっている。

1. 工業振興の課題

沖縄は従来、工業立地上見るべき資源がない、市場規模が小さい、離島県で原材料や製品の輸送コストが割高であるなどの理由から工業が発展せず、技術の集積が立ち遅れてきた。そのため工業の立地条件が大きく技術力に左右されるようになった今日でも、沖縄の地域特性を活かした工業の高度展開、高い工業集積の実現を困難なものにしている。技術集積と工業集積は不即不離の関係にあり、工業の発展はその地域の技術集積を高め、技術集積の高さはより一層の工業の発展を招来する好循環のパターンによる経済発展が実現される。沖縄の場合は、この逆の悪循環パターンに陥っている感は否めない。この悪循環を如何に断ち切るかが工業振興の真の課題と考えられる。

2. 工業振興のための中核的ターゲットの必要性

工業の発展が遅れ技術集積が低く悪循環に陥っている地域では、地域の力（トピ・カテ）を分散した総花的な工業振興策では効率が悪く、悪循環を断つことは極めて困難である。このような地域では、地域の産官学の総力をあげた展開の求心力となりうる分野を工業振興の中核的ターゲットとして設定することが望まれる。その分野に産官学の分散した技術力、研究開発力を集結し、さらに産官学ともに優先的にその分野の施設・設備の強化、人材の養成・確保、研究開発費の投入等を強力に推進する必要がある。これにより、その分野の振興を先導的に実現することで他の産業、さらに農林水産業や観光・リゾート産業など他の産業分野の振興・発展を誘導するわけである。

3. 中核的ターゲットの選定

中核的ターゲットには21世紀に向かって沖縄での展開に最も有利な条件を備え、大きな発展性を有し、振興が可能な分野が設定されなければならない。

即ち、沖縄の地域特性上有利な展開が可能で、技術・情報・人材などの技術集積も比較的優位にあり、内外の経済環境や科学技術の動向などから将来的に有望で、かつその振興が他の工業分野や他の産業の発展に大きな波及効果が期待できる分野であることが望まれる。

工業開発は基本的に魅力的な資源（素材・条件）を活かし、これを市場が求める品質、価格の製品に高度の技術によって生産・加工し、強力な流通・販売を展開していくことにある。

沖縄は、その地理的位置、広大な海域、亜熱帯性気候、独特の歴史的風土と自然環境に根差した伝統技術・文化など独特の地域特性を有し、工業資源としても太陽エネルギーやバイオマス（生物資源）、海洋資源など、内外の経済環境や科学技術の動向からみても21世紀に向かっての産業展開上有望な素材・条件となりつつある。

とりわけバイオマスは、上述の沖縄の地域特性を網羅した形の資源的特性を有し、さらに技術開発や、市場展開の上でも他の分野よりも比較的優位にあり、しかもいま一つのモノづくり産業である農林水産業の振興にも多大の複合的効果が期待できる。即ち、工業振興の中核的ターゲットとしてはバイオマス分野への設定が妥当であろうと思われる。

4. 中核的ターゲットとしてのバイオマス利用の展開とTTCの役割

沖縄地域でのバイオマス利用では、亜熱帯農業の持続発展の上でもサトウキビ、パインアップル、パパイヤ、ヒラミレモンなど、未利用資源としてのギンネム、ゲットウ、ホテイアオイなどの総合的高度利用が重要であり、またガンやエイズなど難病の予防・治療に効果を有する多様な生理活性物質を含有する海洋生物の利用が期待される。

経済大国日本の中で、原料の生産及びその利用加工の上で割高となりやすいコストを克服してゆくために、バイオマスが含有する高付加価値物質の分離利用から最終残渣の肥料・土壌改良材までの総合利用体系の確立が重要である。即ち、バイオマス利用の産業的成功とその持続発展の鍵は総合的高度利用体系の確立にあり、強固な農工の連携、産官学による集中的技術開発、市場開発の強力な展開にある。

㈱トピ・カテクノセンター（TTC）は頭脳立地構想により、地域整備公団、沖縄県、具志川市、沖縄電力㈱、他1市1町、民間33社の出資により、沖縄県の産業振興に資するための研究開発、人材育成、情報提供事業などを事業概要として平成2年10月設立された第三セクターである。

その事業の核、特に研究開発事業では”（沖縄の地域特性に立脚した）「熱帯・亜熱帯地域資源の工業的高度利用分野」をメインとし、その関連分野”をターゲット

としている。当然、熱帯・亜熱帯地域資源はバイオマス並びにその関連分野が中心になるものと考えている。

従って、産業振興の中核的ターゲットとしてのバイオマス利用の展開の重要な推進役としての役割が期待される。TTCは第三セクターであるが株式会社でもある。即ち、TTCの役割は、沖縄地域におけるバイオマス利用の産業化を促進するために、短期的には株式会社として大学や研究機関における研究成果を”固いお米のくご飯>からくおかゆ>にする”ための事業を、中・長期的には第三セクターとして大学や研究機関における産業化のシーズを育てるための事業を強力に推進することになる。

おわりに

TTCが沖縄地域の産業振興のための先導的役割を果たし得るためには、地域の産官学の多大のご支援、ご協力が不可欠であり、変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いしたい。